



江戸川区立篠崎子ども図書館

《頓宮美津子》

消費生活相談について

問 平成21年度に市町村に消費生活センターの設置努力義務がなされた。県センターへの依存率が高い本市は、迅速な相談体制と市民サービスを向上させるため、専門員を配置し相談の充実を図るべきではないか。

答 現在月1回の相談の実施を消費生活問題研究会と連携

して、スキルアップに努めて、毎日相談できる体制をつくっていききたい。(市長)

教育行政について

問 ①郷土を愛し、良く知る子どもたちをはぐくむために、総社市史の子ども版を作成してはどうか。

②本市の子どもの読書の実態はどうか。また、児童館もないので、公民館などの施設を活用して子ども図書館をつく

ってはどうか。

答 ①現在副読本もあるが、清音・山手分も含めて新しい資料を作成する必要がある。子ども向けの刊行も、今後検討していききたい。(教育長)

②コンピュータ導入による図書データの効果で、読書率は増加している。朝読書・ノイテレビデー等はさらに徹底したい。子ども図書館は、先進事例を研究して今後検討していききたい。(市長)

《小西義巳》

総社流国民文化祭の継承について

問 ①第25回国民文化祭を機に観光史跡等の案内板を国・県統一してはどうか。

②民話の祭典を中心とした総社市版文化祭を次世代にどのように継承していくのか。

答 ①看板デザインの統一化は重要。総社観光プロジェクトで作った案内板で国・県へ

統一化を働きかけたい。

②国民文化祭は好評をいただき、4事業で高い評価を受けている。今後は、文化行政がネットワークをつなげ、幅広く考えていきたい。(市長)

川西地区直売所について

問 小規模農家が利用できる農産物直売所を、川西地区に設置されたい。

答 川西地区での同意があれば歓迎したい。(市長)

大野地区の道路拡張について

問 桜の名所である大野地区13世帯のうち、自動車運転できるのは3世帯のみであり、総社市新生活交通の運行に期待している。スムーズな運行ができるよう道路の拡張をされたい。

答 待避所が必要であれば、土木担当と協議し考えたい。(市長)



大野地区への入口

《大熊公平》

農業行政について

問 厳しさを増す農業状況を打ち破るため、新農業会議を起こし、「農業ビジョン」が策定され、60の提言がなされた。この中に地産地消による地域農業の活性化策が数多く提言されている。学校給食をはじめ朝市・産直など地域で作られた作物を地域の人が消費することを今以上に進める

ことが必要である。地産地消をさらに進めるために条例化してはどうか。

答 これからの農業を語るうえで、地産地消はなくてはならない。農家と消費者(学校給食など)が結びつき、そのことで地域が活性化し農業者が元気になるなら、市を挙げて取り組む。3月議会に総社市地産地消条例案を提案する。(市長)

情報通信について

問 行政と市民がやりとりできる情報通信網は有効利用できているか。また、防災・行政情報・子どもの安全安心メールなど必要なサービスを行うべきと考えるがどうか。

答 担当となる総務課に熱意あふれる職員を配属し、きめ細かな行政情報や子どもの安全安心メールを市民へ配信したい。(市長)

《西森頼夫》

米の品質低下は農業共済で救済を

問 夏の猛暑でヒノヒカリは高温障害が起き、品質が低下した。その結果、1俵4千円という安値であった。一等米が昨年比4千円安と暴落、品質低下でさらに5千円安となった。これでは肥料・農薬代も払えない。国の災害指定が受けられるようにして、農業

共済で救済することが必要と考えるがどうか。

答 ヒノヒカリは市内でも一等0%、規格外67%と壊滅的な打撃である。災害として行えるよう、農業共済組合副管理者として国・県に働きかけていきたい。(市長)

学校給食での米の消費拡大について

問 年に約200日の学校給食で米食は142日、パン食

は34日、めん食は24日と聞いている。米の利用拡大の観点から、米飯給食をさらに増やすことはできないか。

答 米飯給食を拡大するよう審議会と協議していきたい。米粉パンは今年度4月から給食に使用している。また、米粉めんも現在開発中であり、完成したら導入し、米の消費拡大を進めていきたい。(教育長)



にぎわう朝市



住宅地に迫る耕作放棄地